

編集後記

新型コロナウイルス COVID-19 の影響が止まりません。現在、国内外で感染者数は増加を続けており、各地でその対応に追われています。不要不急の集まりを避けるようにということで、研究会、学会などの中止も相次いでいます。また、会社に出勤せず、自宅などで仕事をするテレワークも推奨されています。東京オリンピックなどをきっかけに、情報の迅速なやりとりやテレビ会議などができる体制を整備しつつある企業も多いのでしょうか。

このような流れの中で、多くの人が集まる学術集会の役割はなんのでしょうか。新しい研究についての講演を聴くだけであればインターネットでも可能です。実際、講演会がネット配信されて、各地で聴講することも増えています。より詳細を知りたいければ、電子版で早期に公開される論文を読むことができます。また、研究成果の最終的な発表の場としては、本誌をはじめとする学術誌が用意されています。

しかし、学術集会では、人と人が直に話すことによるいくつかの利点があります。研究者同士でざっくばらんに話をし、未発表の最新の情報やアイデアを交換し、お互いに刺激し合うことができます。同じ興味をもつ知己を増や

し、共同研究につながることもあるでしょう。このようなコミュニケーションは、言語そのものだけでなく、声音、表情、ジェスチャーなどの身体表現が加わることで、情動を含んだ実のあるものとなります。人となりを知れば、その後のメールなどでのやり取りも円滑に進むでしょう。また、自分の研究の発表に対し、多方面から意見をもらって考察を深めることができます。さらに、多くの企画のある学術集会では、自分が普段はあまり興味を持っていないテーマについても学ぶ機会があり、神経学の大きな流れを感じられることもあるでしょう。ハンズオンで実際の手技を経験できるのは言わずもがなです。

このように情報ネットワークが発達しても学術集会の意義は消えません。感染が早期に収束し、今年の本学会学術集会が無事に開かれることを祈っています。また、これまでに学会、研究会などの中止により発表の機会を逸した方は、この機会にぜひ論文としてまとめてみませんか。論文として発表すれば、広く長く伝えることができます。本誌へのご投稿をお待ちしております。

(鈴木 匡子)

〈編集委員〉

編集委員長 園生 雅弘 編集副委員長 高尾 昌樹
 編集委員 荒木 信夫 飯塚 高浩 池田 昭夫 亀井 聡 古賀 政利
 鈴木 匡子 坪井 義夫 西野 一三 星野 晴彦
 編集委員(幹事兼任) 小野寺 理 新野 正明 三澤 園子

〔臨床神経学〕 第60巻 第3号 2020年3月1日発行
 編集者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 一般社団法人日本神経学会
 発行者 東京都文京区湯島二丁目31番21号 一丸ビル 戸田 達史
 印刷所 〔郵便番号 602-8048〕京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社

発行所 〔郵便番号 113-0034〕東京都文京区湯島二丁目 31 番 21 号 一丸ビル
 日本神経学会

郵便振替口座 東京 00120-0-12550

TEL. 03-3815-1080 FAX. 03-3815-1931

ホームページアドレス：<http://www.neurology-jp.org/>